

山際塾長のこだわり教育論 1

子どもをほめていますか？

人は認められ、ほめられてこそやる気を出し向上し発展します。大人も子どもも同じです。誰もが人に認めてほしいし、ほめてほしいのです。それが明日への原動力です。

子どもは大好きなお母さんお父さんに認めてもらい、かけがえのない大事な子どもだと思ってほしいから頑張ります。やってもやっても親が無反応だったり、「まだまだこんな程度では」とばかりに、ほめなかったり、ほめ惜しんだりすると、とたんにやる気をなくしていきます。

子育て上手は、ほめ上手です。

もし今、子どものやる気がどうも足りない、と思われるならば、今一度子どもとの接し方を改善されてみてはいかがでしょうか。

さてあなたは自分のお子さまのいいところを20個言えますか？

とたずねますと「悪いところなら20個言えるけど・・・」とおっしゃるお母さまが大多数のようです。1番気にしていることから先に思いつくから、どうしても欠点が先にでて来てしまうのですね。

でも考えてみてください。

当り前のこと、たとえば朝一人で早起きできたとか、一人で着替えられたとか、ちゃんと朝ごはん食べたとか、ちゃんと塾に遅れずに一人で行けたとか、いろいろなことを話してくれるとか、そういうことでも「いいところ」なんだと親が気づいてやること、こいういうことが実はとても大切なのです。

それらのことは、できて当然だと思われるでしょうけれど、でもそのような眼で改めて見てみることで、自分の子どもの「いいところ」がたくさん見

えてくるのです。

自分の子どもが本当に素晴らしい、かけがえのない子どもであることが、改めて実感できるでしょう。そしてその気持ちを思い切り子どもに表現するのです。この**表現が大切**です。表現は多少大げさくらいでもいいでしょう。親が心から喜んでいるということをちゃんと伝えるのです。

こうして**心からほめられて育つ子どもはすくすく伸びます**。

その反対に「それはできて当たり前なんだから。」と、子どもをほめるチャンスを逃がしていると、大変もったいないばかりか、子どもの伸びる芽を摘んでしまいます。

結果よりもプロセスが大切です

たとえば、90点取ってきた子どもに「90点えらいね。良かったね。」とほめてあげれば、子どもは次にはもっといい点をとって喜んでもらおうとやる気を出します。

でも反対に「何だ100点ではなかったの。残念ね。次はもっと頑張るんだよ」というのでは子どもはやる気を失います。それに、今度、90点以下のテストを取ってしまった時には、もう持ってこなくなる可能性すらあります。

前後の状況や、その子の学力状況によって事情が異なりますので、一概には言えませんが、大切なことは結果よりもそこに至るプロセス(経過)ではないでしょうか。

「ずいぶん頑張ったんだね。偉かったね。」という言葉が自然に出るようになれば、本当に素晴らしいですね。その子は確実に伸びるでしょう。

子どもはほめられることで伸びます。このことは絶対です。

1日1回、子どもの良いところを見つけること、必ずほめること、これを実行してみられてはいかがでしょうか。